



全国集会プレ集会

「私」から始まる「社会教育」と出会う ～まなびの広場～

◆オープニングメッセージ



村田和子 関西ネット代表

第一部：「問い」の共有

▼五月二十一日(日)、貝塚市立浜手地区公民館において、関西集会の**プレ集会**としての位置づけで、**社全協関西ネットワーク20周年事業「私」から始まる「社会教育」と出会う ～まなびの広場～**が開催され、大学生を中心として30人以上が集いました。

▼オープニングの主催者挨拶で、村田和子代表は、**社会教育は活動実践までのプロセスが重要**で、このフォーラムは全国集会に向かうプロセスでもあり、全国集会に関わる方々、社全協関西ネットワークの会員、大学生が集まり、一人ひとりが日頃感じていることを、他者と対話することでリアルな社会教育をつくりだすことを目指していると語り、また、社会教育施設である貝塚市浜手地区公民館で社会教育を考える意義も併せて言及されました。

(水本)

▼冒頭、辻合悠さんから開催趣旨についての説明があり、本企画が関西ネットワーク20周年企画であるだけでなく、全国集会のプレ企画であること、社会教育をめぐる「**次世代にバトンをつなぐ**」というテーマに則して実施されることが話されました。そして、辻合さん自身が「社会教育」という言葉に出会うまで言語化できなかった「**漠然とした「モヤモヤ」感**」のよ

うに、「**私**」から始まることを大切にする場にした、という思いからの企画であり、参加者に「話せてよかった」「また来たい」という気持ちが残ることを願った提案とのことでした。

▼トークゲストは、**輪玉芳野さん**と**平見美憂さん**。それぞれが抱える「モヤモヤ」をオープンにしてくれました。

▼輪玉さんは現在、神戸大学大学院で夜間中学について研究しており、課題意識をもった**きっかけは、自身の祖母の経験談**でした。また、コロナ禍の影響をともに受けた大学生活の中で、「社会教育」の場に出会い、**様々なテーマで対話できる仲間と出会ったことで救われた**、と語りました。



辻合さん 平見さん 輪玉さん

▼平見さんからは、社会は自分では簡単には変わらないと絶望した学生時代に社会教育と出会い、読書会を通じて「**何も変わらないが1つは残せた、残し方がわかった**」と感じた。仲間がいたあの頃は何かができなかったが、社会で希望の就職をしたはずが、また最初からというしんどさと新たな絶望がある。**私にとって社会教育は「他者」を通じて「私」に気づかせるもので、始まりはいつも「他者」との関わりからだった**と語られました。▼お二人の語りを受けたトークでは、日々の忙しさをしんどさの中でも、「**社会**」や「**教育**」の価値をどのように見出せばいいかなど、「モヤモヤ」が、会場へ



(吉水)



第二部・哲学対話

▼この「問い」に応じて、6班に分かれて哲学対話の時間が始まりました。

▼まず自己紹介をしながら毛糸で「コミュニティボール」を作り、次々個々が話したいテーマを紙に書き、班内の投票により「いじめ問題」「電気代が高い問題」「翻訳機は必要か」「大学の学費高すぎ」「農と食」等のテーマが決まりました。

▼ボールの持ち手が話し手となるのがルールで、対話に慣れない人も話し易くなっています。そんな各班の対話を奈良市の公民館職員である佐野万里子さんと山田龍太郎さんが聴き取り、まとめの時間に繋げていきました。

第三部・まとめの時間

▼班でどんな対話があったのか、佐野さんから報告とともに、山田さんが班の皆さんから補足や感想を伺い、対話の内容を全体に共有をしました。学生からは「関西ネットのみなさんが、自分の話をじっくり聞いてくれて嬉しかった」、

「ここに来るまでは固いと思っていたけれど、社会教育って楽しかった」など、それぞれ自分の言葉で感想が紡がれていきました。

▼まとめに際し、辻合さんから、「対話」と「議論」、「会話」の違いや、普段は拾われない小さな声が聞こえる対話の場を目指したことが話され、輪玉さんからは、学生の「他の人も自分と同じモヤモヤを抱えていたと気づいた」という発言に応じて、この場で「『私』から始まり、他の人に上げられた」との感想がありました。平見さんは、今回は、**一方的に教えられる力関係ではない対等な対話の場になったこと**に安堵されたそうです。



参加者のみんなで記念撮影♪

◆閉会のことば◆

▼終わりに、村田和子代表から本会のように、「私」の日常を語りあう対話による気づきから自身の暮らしや社会を變える力が生み出されるのではと話されました。

▼閉会にあたり、総合司会で関西ネット事務局長の佐藤祐介さんから、今回、若者たちによる「私」を出発点にした対等な対話で、「社会教育」の価値が世代を越えて確認されたことは、きつと全国集会につながるだろうと締めくくられました。

(山田)

古今東西 おでかけ速報

▼プレ集会は、先輩の辻合さん、平見さん、輪玉さん、村田先生からのお話で幕を閉じた。まず、辻合さんから「対話」と「議論」、「会話」の間にある違いについて言及があり、本集会では拾われなかった小さな声を表に出るような対話を目指したとお話があった。

▼平見さんや輪玉さんからは「自分だけのモヤモヤではなく、ほかの人も同じようなモヤモヤを抱えていたと気づけた」という参加者の感想に対し、「まさに『私』から始まって、ほかの人につながられている」という言葉があって、印象的だった。▼最後に、村田先生から本集会の意義やこれからの暮らしへの活かし方について言及があり、**自由で気軽な対話の場が自然発生的には達成しえない**という点で、本集会はとても意味のあるものであったというお話。▼また、それぞれの場面で各自が持っている「モヤモヤ」を語り合ったが、暮らしの中で**一歩深めた学びへとつなげることに意味がある**との言葉に、学生の私も身が引き締まる思いがした。

(感想：舟瀬)